中央図書館だより

Hon do？（本どう？）

NO.98
（令和４年６月１日発行）

特集コーナー紹介

◆今村翔吾さん特集
（特設５）

◆父の日お父さんえほん（1A）
◆歯を大切に　虫歯予防月間（1A）
◆あめ（1A）

◆体の不調を整える（７番棚）

お家で Do!?いきいき音読ライフ

「Do!?☆あまくさ☆」で音読のコーナーが始まりました。文章を声に出して読むことは、脳の活性化に効果的だと言われています。
特設コーナーも設置していますので、ぜひご覧ください。

（「Do!?☆あまくさ☆」は「天草ケーブルテレビ」や Youtube の「天草 City チャンネル」で視聴いただけます）

■新着本紹介■

新刊の一部をご紹介します

一般書

『マスカレード・ゲーム』東野圭吾（集英社）

『まるごとわかる オンライン就活 2024 年度版』才木弓加（実務教育出版）

『耳穴スイッチ』清水ろっかん（世界文化ブックス）

『しあわせの小径』葉祥明（日本標準）
『子どもの姿勢ピン！ポーズ』西村猛（主婦の友社）
『仕込み５分の漬けとく献立』市瀬悦子（オレンジページ）
『ヒロスエの思考地図』広末涼子（宝島社）
『鬼役　32』坂岡真（光文社）
『剣持麗子のワンナイト推理』新川帆立（宝島社）

児童書・絵本

『北条義時』（歴史を変えた人物伝）山本みなみ（講談社）

『マスクと黒板』濱野京子（講談社）

『じぶんでよめる とりずかん』成美堂出版編集部（成美堂出版）

『エネルギーって何だろう？』小池康郎（PHP 研究所）
『人体のふしぎ 366』原田知幸（きずな出版）
『続ける力』鳥居志帆（旺文社）
『目で見ることばで話をさせて』アン・クレア・レゾット（岩波書店）
『いるいる！みずべのいきもの』鎌田歩（教育画劇）
『おばけのやだもん　こわーいおばけやしき』ひらのゆきこ（教育画劇）

■中央図書館カレンダー■

※市内の新型コロナウイルスの感染状況によって、おはなし会などのイベントは中止になる場合があります

6 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	△16	17	○18
19	20	◇21	22	23	24	□25
26	27	28	29	30		

7 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	○16
17	18	19	20	△21	22	□23
24	25	◇26	27	28	29	30
31						

【開館時間】火～金曜９時～１９時　土・日、祝日９時～１７時

■は休館日
◇しあわせおはなし会 10：30～
□おはなし会　14：00～
○古文書学習会　14：00～
△みずのわ読書会　10：00～

問合せ先 天草市立中央図書館
TEL：（0969）23-7001

直木賞作家　今村翔吾のまつり旅★トークイベントを開催します！

第 166 回直木賞受賞のお礼を兼ねてワゴン車で一度も家に帰らず 47 都道府県を巡る感謝の旅―今村翔吾のまつり旅―。「今村翔吾さんの作品に対する思いや生き方に触れて、天草の人に元気になってもらいたい！」そんな思いでこのまつり旅に図書館で応募し、天草に来ていただくことになりました。

【日時】６月 16 日（木）13：30～（受付 13：10）
トークイベント　60 分程度　（閉会 15：00 予定）
【場所】天草市複合施設ここらす多目的室 AB　【主催】天草市立図書館
【入場料】無料　【定員】70 人（抽選・天草市民優先　※抽選結果は応募者全員にハガキで連絡）▲申し込み
【応募】５月 24 日（火）～６月７日（火）
・各図書館カウンター
・電話（中央図書館 0969-23-7001）
・電子申請サービス

【今村翔吾さん　プロフィール】
1984 年京都府生まれ。滋賀県在住。
2017 年『火喰鳥　羽州ぼろ鳶組』で小説家デビュー。
2022 年『塞王の楯』で直木賞受賞。

コラボ特設コーナー紹介

市役所などの各課との新規コラボコーナー

◆男女共同参画週間キャッチフレーズ
「あなたらしい」を築く、「あたらしい」社会へ
（男女共同参画課）（特設１）

◆第 10 回ノサリバ講演会（政策企画課）（特設１）

◆家庭での食中毒予防法！（健康増進課）（特設２）

◆地球環境を考えよう～一人ひとりにできること～
（市民環境課）（特設３）

図書館おすすめ　NHK クマロク！で紹介

５月 30 日（月）放送の NHK「クマロク！」で“梅雨を前に読みたい本”をテーマに、図書館のおすすめ本が紹介されました！中央図書館所蔵の本です。

『虹の図鑑』武田康男（緑書房）

他にも雨に関する絵本など特設コーナーを設置しています

蔵書点検が終了しました

蔵書点検とは、図書館で所蔵している図書が所定の場所にきちんと置いてあるか、行方が分からなくなっている図書はないかを確認する作業のことです。また、傷んでいる図書がないかを点検します。利用者の皆様には休館の間、ご不便をおかけしました。６月に入り、新たな特集コーナーも設置していますので、ぜひご来館ください。

直木賞作家『今村翔吾』さんのトークイベントが緊急！！決定しました。

直木賞受賞のお礼を兼ねて読書の楽しさを伝えるため、47 都道府県をすべて巡る感謝の旅。
―今村翔吾のまつり旅ーに図書館で応募し、なんと**当選**しました⁉

テレビにも出演されていますが、廃業の危機にあった書店を事業継承されたり、今年度のオーサービジット(様々なジャンルの本の著者が各地の学校を訪問して特別授業をする)にも参加されるなど若さを武器に精力的に活動されています。私は歴史小説が得意ではないのですが受賞作『塞王の楯』は長編ですが2日で読みました。『Story for you』の本の今村さんのショートショート『鬼は戦う』は3分でクスッと笑えます。おすすめです。

さて、今年の連休はコロナによる制限がなく、天候にも恵まれ、3 年ぶりに自由に行動できるお休みになりました。図書館の利用は通常のお休み程多くはなく比較的穏やかな連休でしたが、7 連休 10 連休という方もいらっしゃったようで、県外からの来館も多いような印象でした。

個人的には、久しぶりに第一映劇で、ドキュメント「ボストン市庁舎」という長編映画で充実した時間を過ごしました。ワイズマン監督の「人々がともに幸せに暮らしてゆくために、なぜ行政が必要なのかを映画を通して伝えるためでした。」というようにこの映画は、多様性の歴史と人口構成を持つボストンの人々の暮らしに必要なさまざまなサービスを提供している市役所の活動を見せています。日本との違いはあるものの、職員が市民一人ひとりの声に耳を傾け現場に出向き、様々な問題を解決しようと真摯に向き合っている姿は、市民が信頼するご近所さんに相談しているようで、ホッとする場面が多々ありました。5 時間近い上映時間にも関わらず眠気をほとんど感じることなく、仕事に向き合う姿勢を再考することが出来すがすがしい気持ちでした。以前同じワイズマン監督の「ニューヨーク公共図書館」は熊本市内で観ましたので、第一映劇さんに感謝の一日でした。